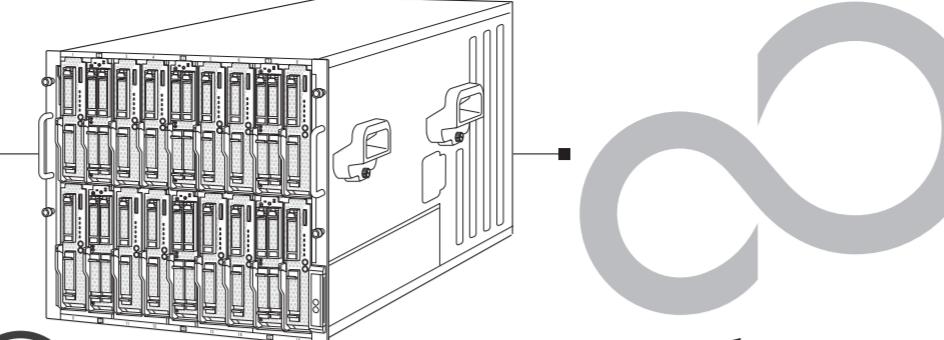


PRIMERGY BX900 はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では、PRIMERGY BX900フレードシステム(以降、本製品)の導入について、セットアップの
基本的な流れを説明しています。
本書をご覧になり、本製品を使用する準備をしてください。
本書に記載されていない項目や詳しい手順については、関連する各マニュアルをご覧ください。



本製品のマニュアルについて

本製品の主なマニュアルは、次のとおりです。各ステップの右上に、そのステップで使用するマニュアルが記載されていますので、必要に応じてお読みください。

紙マニュアル(本製品に添付) 製品によっては、これ以外にも紙マニュアルが添付されている場合があります。

- はじめにお読みください 本書
- 梱包物一覧(シャーシ) それぞれの箱に梱包されている製品、部品、ケーブル、ネジなどの一覧
- 梱包物一覧(サーバーブレード) 本製品を安全にお使いいただくための注意事項、およびサポート情報
- 安全上の注意／サポート＆サービス 本製品ラックに搭載する手順、およびラックナット／ラッククレット取扱位置の実寸図

PRIMERGYスタートアップディスク

詳しくはルートフォルダの「index.html」を開き、「PRIMERGY ドキュメント」をクリックしてください。
BX900フレードシステムの概要と、各コンポーネントの搭載手順、シャーシの運用と保守など
サーバーブレードの取り扱い、内蔵オプションの取り付け、運用保守、トラブルシューティングなど
フレードシステムの管理機能の使い方、設定情報のバックアップなど
OSインストール方法や注意事項、高信頼ツールの概要と設定など
ストレージブレード ハードウェアガイド ストレージブレードの取り付け、取り扱い、仕様など
ServerView Operations Manager ユーザーズガイド ServerView Operations Managerでサーバーの監視を行うための設定や操作など
ServerView Windows エージェント ユーザーズガイド ServerView Linux エージェント ユーザーズガイド REMCSエージェント運用ガイド REMCSエージェントの使用方法

アレイコントローラ ドキュメント&ツールCD

Integrated Mirroring SAS カーナークスガイド サーバーブレードのオンボードSASコントローラの取り扱い
ストレージブレードに搭載されたアレイコントローラカードの取り扱い
MegaRAID SASユーザーズガイド

PRIMERGYページ(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>)にて公開

- コネクションブレード関連マニュアル 「カタログ・資料」→「マニュアルはこれら」の順にクリック
- 各マニュアルの最新版 「各マニュアルの最新版」
- 搭載可能なコンポーネントの確認 「システム構成図」をクリック
- サーバ導入やシステム構築に関わる技術資料 「技術情報」をクリック

フレードシステムの概要については、「シャーシ ハードウェアガイド」をご覧ください。

2 シャーシを設置する

設置条件について

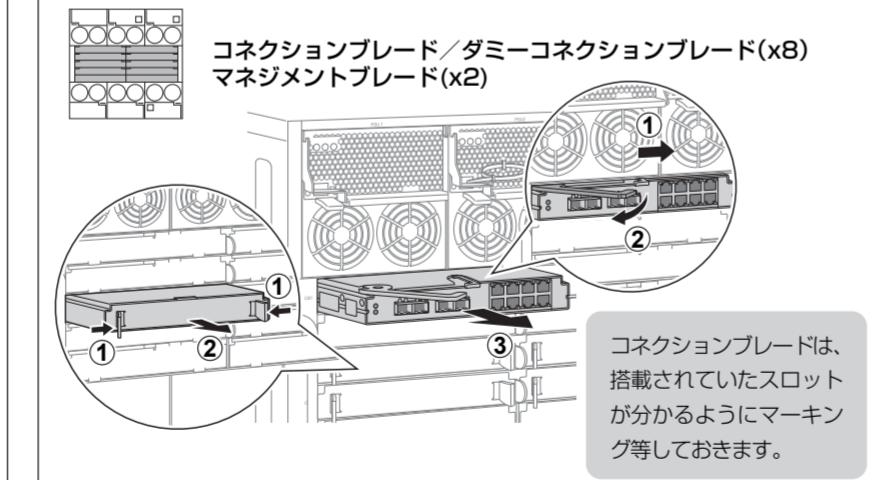
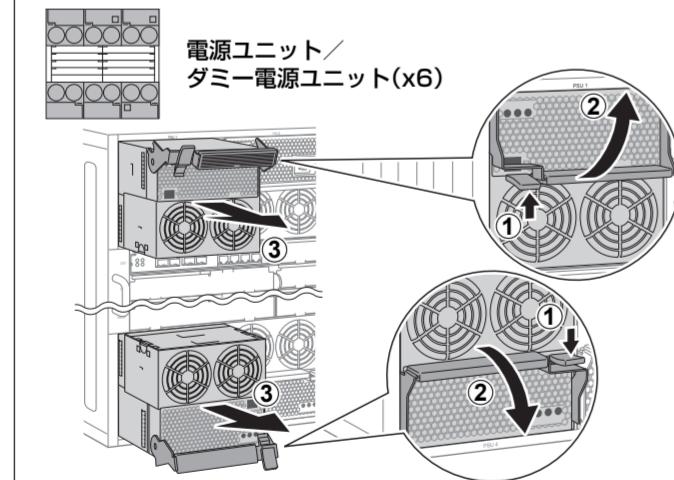
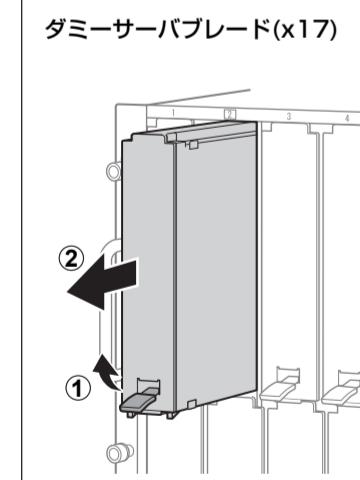
本製品は、ラックに搭載して使用します。ラックの設置および取り扱いについてはラックに添付のマニュアルをご覧ください。
本製品のラック搭載条件や消費電力などの設計構築に必要な情報については、
「PRIMERGY」ページの「技術情報」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/tec.html>)
で公開されている「ラックシステム構築ガイド」および「サーバ消費電力・質量計算ツール」をご覧ください。
なお、本製品は、専用室での使用を前提に設計されており、オフィス環境での運用には騒音上の問題が発生いたします。専用室へ設置してください。

ラック搭載ガイド

コンポーネントを取り外して軽量化する

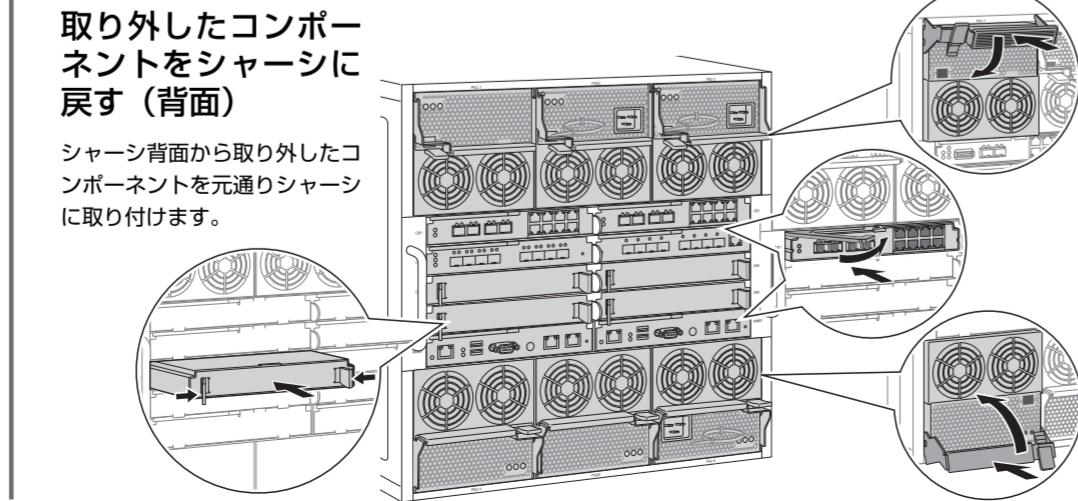
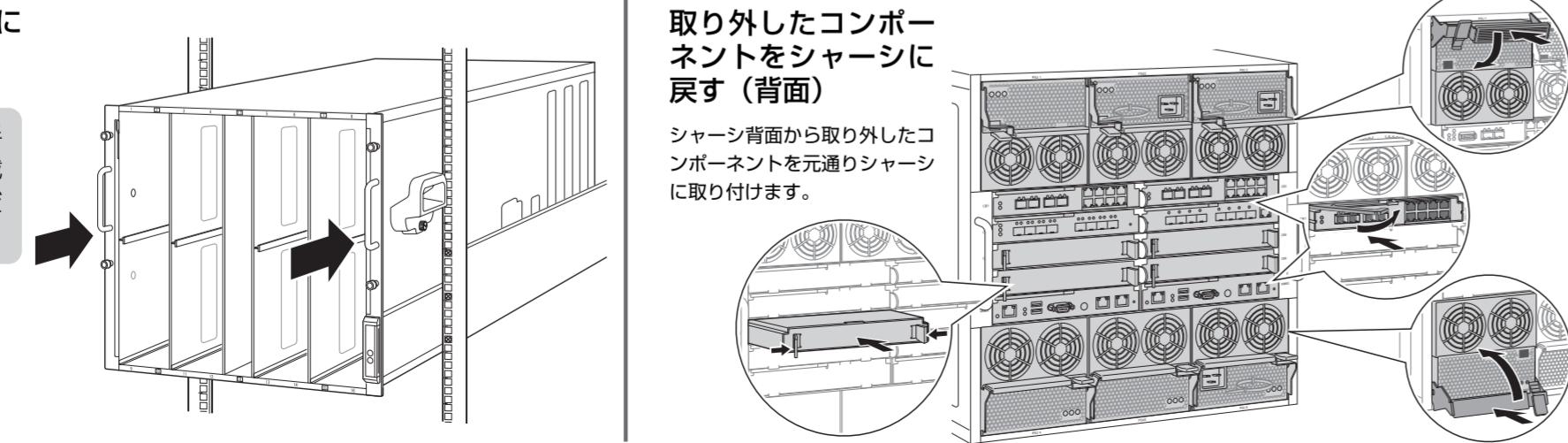
シャーシには、標準搭載のコンポーネント、およびカスタムメイドサービスで選択されたコンポーネントがあらかじめ搭載されています。
油圧リフターなどを使用しない場合は、安全のためすべてのコンポーネントを取り外してからラックに搭載してください。
なお、これらを取り外しても約49kgの質量がありますので、搭載作業は3人以上で慎重に行ってください。

ダミーサーバーブレード(x17)



シャーシをラックに搭載する

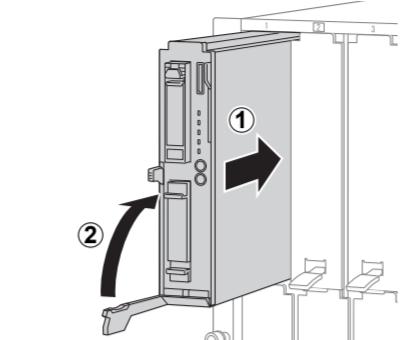
ラックへの搭載手順は、「ラック搭載ガイド」をご覧ください。



3 サーバーブレードを搭載する

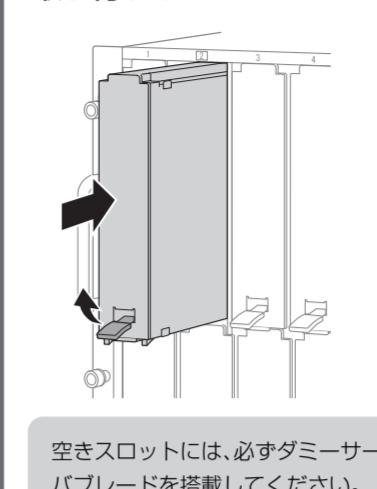
サーバーブレードを取り付ける

サーバーブレードに別売オプションを取り付ける場合は、サーバーブレードの「ユーザーズガイド」をご覧ください。



ストレージブレードは、ここではまだ搭載しません。接続するサーバーブレードのOSインストールが完了してから搭載してください。

ダミーサーバーブレードを取り付ける



空きスロットには、必ずダミーサーバーブレードを搭載してください。

4 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける

接続元／接続先を記入する

タグラベルは、ケーブルごとに接続元用／接続先用が1枚ずつ用意されています。下線の箇所に接続名などを記入してください。

□記入例：電源ユニット用タグラベル(シャーシ側)
元 BX900 PSU #1 ●
先 AC-01 PORT #1 ●

接続元のシャーシ名や接続口番号などを記入します。
接続先のコネクタ名／切替器名／識別名／タップ名／コンセント名などを記入します。

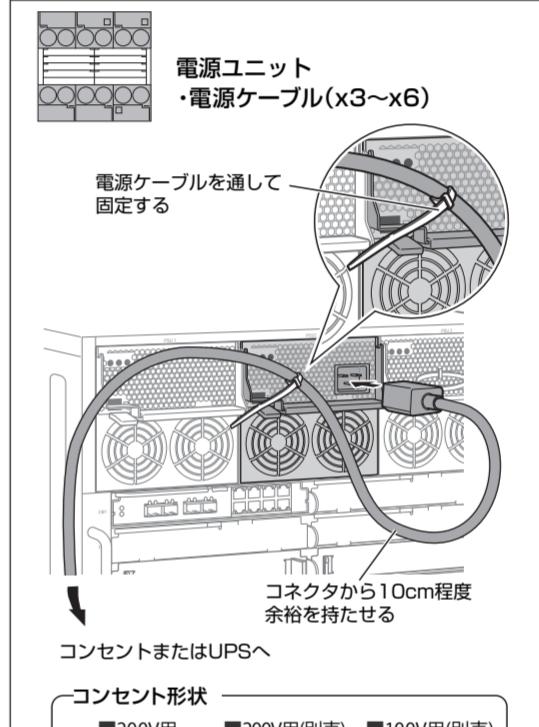
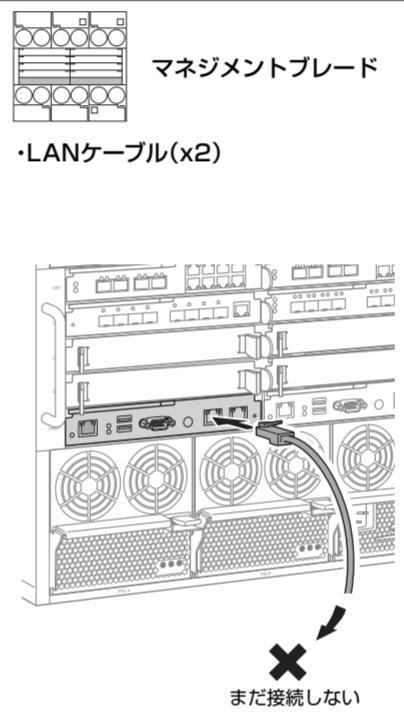
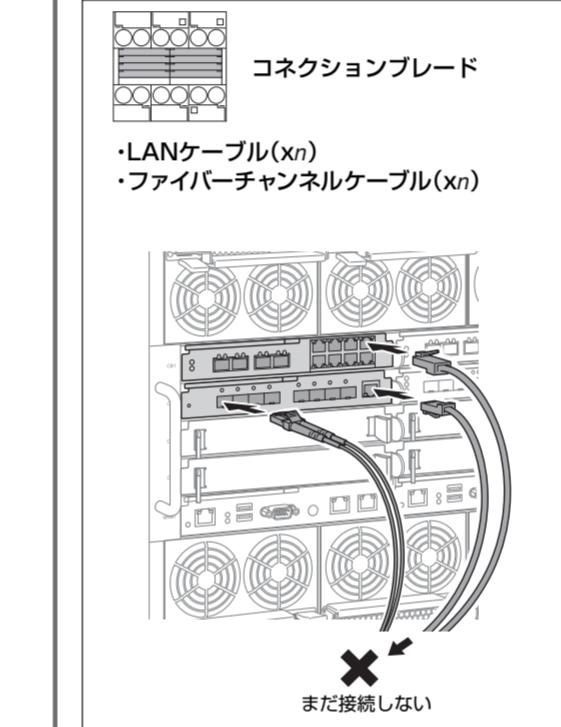
タグラベルを貼り付ける ケーブル両側のコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルに巻きつけるように貼り合せます。



5 シャーシ背面に各種ケーブルを接続する

ケーブルを接続する

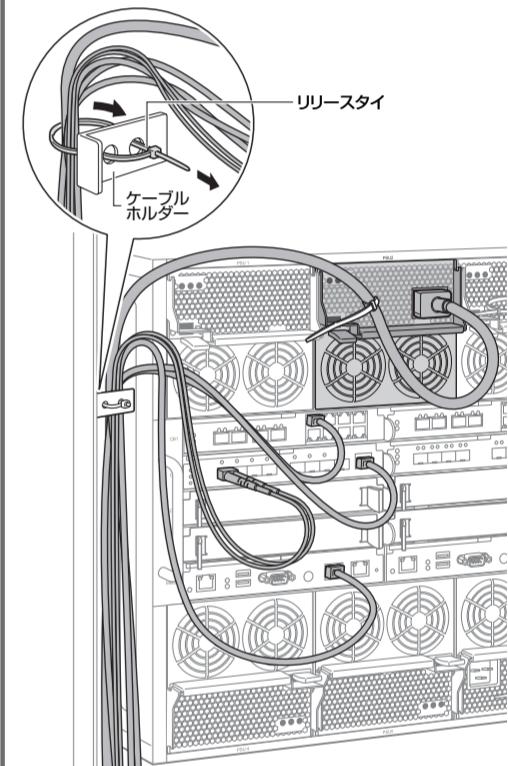
各コネクションブレード、マネジメントブレード、および電源ユニットに対応するケーブルを接続します。



LANケーブルおよびファイバーチャンネルケーブルについては、すべての設定が完了するまで、反対側のコネクタは接続しないでください。

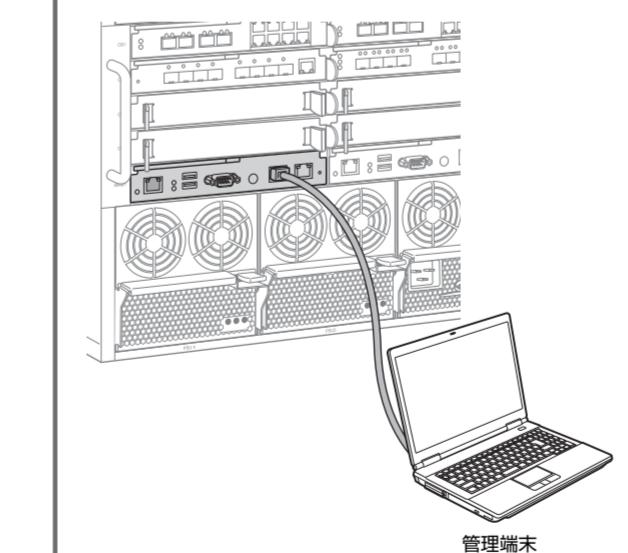
ケーブルのフォーミング

リリースタイ(シャーシに添付)を使用して、各種ケーブルをまとめてケーブルホルダー(ラックに添付)に固定します。



6 マネジメントブレードの初期設定をする

管理端末を接続する



SVMFの起動

必要な設定を行うために、マネジメントブレードのServerView Management Blade Frontend(以下、SVMF)にログインします。
1.管理端末のIPアドレスを、マネジメントブレードの初期値(192.168.1.10)と同一ネットワーク、かつ重複しない値に設定します。
2.管理端末からWebブラウザを起動し、192.168.1.10にアクセスします。
3.次のユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名: admin パスワード: admin
SVMFの初期画面が表示されます。

ファームウェアの版数を確認する

- 1.左下の設定項目メニューで「コンボネント」→「マネジメントブレード」を展開し、「マネジメントブレード-1」をクリックします。
- 2.「ファームウェア版数」の値を記録します。
- 3.「マネジメントブレード-2」をクリックし、同様に「ファームウェア版数」の値を記録します。
- 4.インターネットに接続されている他の端末で「PRIMERGY」ページの「ダウンロード」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>)を開き、「ダウンロード検索」をクリックします。
- 5.製品名に「BX902 S1 サーバーブレード」、カテゴリに「ファームウェア」、OSに「OS選択なし」を選択し、「添付ソフト／ドライバ名称」欄に「マネジメントブレード」と入力して「検索開始」をクリックします。
- 6.表示された一覧から、最新のファームウェアのバージョンを確認します。
- 7.手順3で確認したファームウェアが最新でない場合は、最新のファームウェアをダウンロードして更新します。
ファームウェアの更新手順は、ダウンロードしたファームウェアのドキュメントをご覧ください。

初期設定ウィザードを実行する

- 1.左下の設定項目メニューで、「設定」の左の「+」をクリックして展開し、「基本設定 ウィザード」をクリックします。
- 2.次へをクリックします。
- 3.言語の選択画面で、両方の項目に「日本語」を選択して「次へ」をクリックします。
- 4.日付と時刻の設定画面で、現在の日時を入力し、タイムゾーンを選択して「次へ」をクリックします。
- 5.「設定のインポート」画面で、「設定のインポートの実行」がチェックされていないことを確認して「次へ」をクリックします。
- 6.「識別情報設定」画面で、システム名などの識別情報を入力して「次へ」をクリックします。
- 7.「ネットワーク設定」画面で、管理ポートのネットワーク情報を設定し、「次へ」をクリックします。
(例)IPアドレス: 192.168.1.10
サブネットマスク: 255.255.255.0
ゲートウェイ: 192.168.1.1
- 8.「電源管理設定」画面で、「電源ユニット管理の設定」にチェックを付け、冗長構成を選択して「次へ」をクリックします。
- 9.「暗証番号設定」画面で、LCDパネルを使用するための暗証番号を設定し、「次へ」をクリックします。
- 10.「ハードウェアチェック」画面で、「E-keyingチェック」欄の「開始」をクリックしてE-keyingチェックを実行します。
エラーが検出された場合は、サーバーブレードに搭載した拡張ボードとコネクションブレードの対応を確認してください。
- 11.エラーが検出されなければ、「終了」をクリックします。
設定が保存され、初期設定 ウィザードが終了します。
- 12.IPアドレスを変更した場合には、新しいIPアドレスでSVMFに再接続します。
なお、セグメントを変更した場合は、管理端末のIPアドレスも同一セグメントに変更する必要があります。

管理者アカウントのパスワード変更

セキュリティのため、初期ユーザー「admin」のパスワードを変更します。
1.情報／操作→「ユーザー管理」→「ローカルユーザー」の順にクリックし、「名前欄の「admin」をクリックします。
2.「パスワード」および「パスワード(再入力)」に新しいパスワードを入力し、「適用」をクリックします。

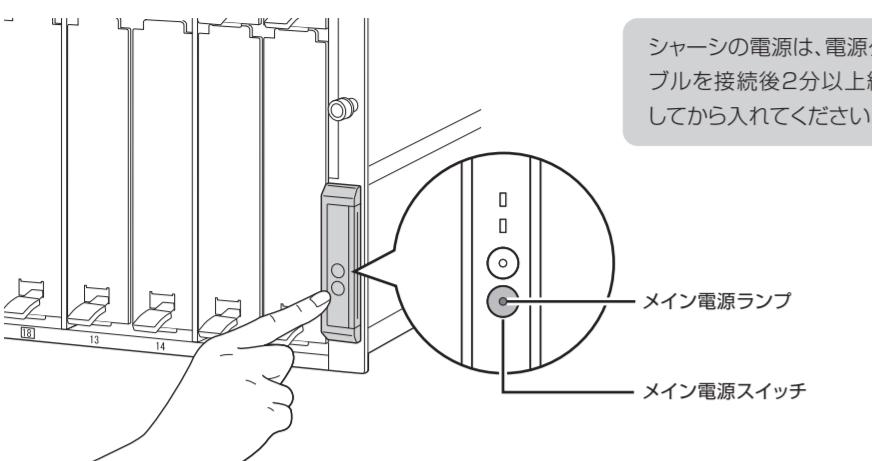
SNMPの設定

ServerView Operations Managerのサーバ監視機能を使用するため、SNMPエージェントの次の項目を設定します。
コミュニティ名は、監視を行うServerView Operations Manager側と同じ文字列を設定してください。
1.「設定」→「SNMP」の順にクリックします。
2.「コミュニティの追加」欄でコミュニティ名とユーザー権限を設定し、「追加」をクリックします。
3.新しいトラップの送信先欄で、トラップ送信先のIPアドレスと使用するコミュニティ名、通過するイベントの種類を選択して「追加」をクリックします。
4.「SNMPの有効」欄の「SNMPの有効」にチェックを付け、「適用」をクリックします。

7

シャーシの電源を入れる

シャーシ前面右下のメイン電源スイッチを押して、シャーシの電源を入れます。



シャーシの電源は、電源ケーブルを接続後2分以上経過してから入れてください。

- ・お買い上げ時の設定では、シャーシの電源が入ると、インベントリ収集のため搭載されているサーバブレードの電源が断続的に入／切します。インベントリの収集が完了するまで、しばらくお待ちください。
- ・電源を入れた直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。動作保証温度の範囲内であれば、しばらくしてから通常の回転になります。

8

OSインストールの準備をする

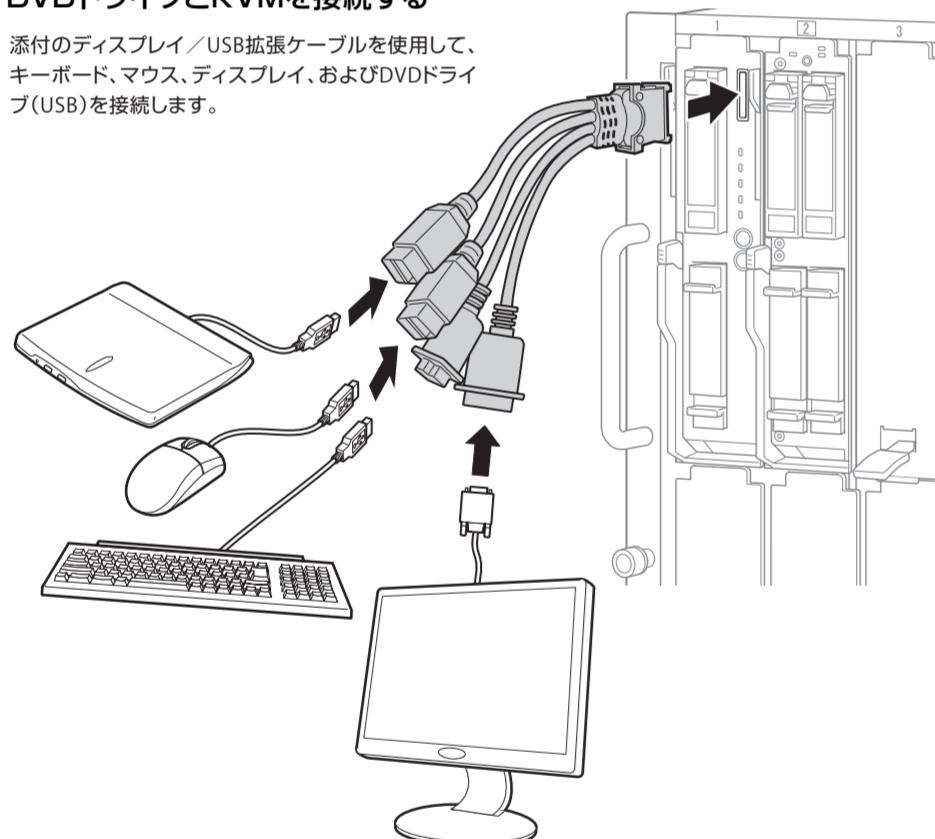
スタートアップディスクを確認する

OSのインストールには、インストールするサーバブレードに対応した「PRIMERGY スタートアップディスク」を使用します。

- ・シャーシとサーバブレードを同時に購入された場合は、シャーシに添付の「PRIMERGY スタートアップディスク」を用意してください。
- ・別途サーバブレードのみを購入された場合は、サーバブレードと同時手配の「PRIMERGY スタートアップディスク」を用意し、以降の手順はサーバブレードに添付の「はじめにお読みください」をご覧ください。

DVDドライブとKVMを接続する

添付のディスプレイ／USB拡張ケーブルを使用して、キーボード、マウス、ディスプレイ、およびDVDドライブ(USB)を接続します。

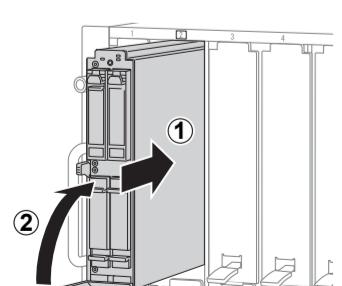


10

OSインストール後の操作

ストレージブレードを搭載する

ストレージブレードをお使いの場合は、接続するサーバブレードの右側のスロットに搭載します。



その後、「MegaRAID SAS ユーザーズガイド」をご覧になり、アレイの構築を行ってください。

LAN設定について

- LANポートとアダプタ番号の対応確認
SVIMでは、インストール時に設定したネットワーク情報が、OSから見てどのアダプタに設定されるかを指定できません。インストール完了後に、必ず設定内容を確認してください。
確認方法については、各OSのヘルプなどをご覧ください。
- 他のアダプタの設定
クイックモードでは、インストール時に設定できるLAN設定は1つだけです。
必要に応じて、他のアダプタのLAN設定を行ってください。

システムを最新の状態にする
(Windowsの場合)

インストールしたシステムを最新の状態に更新します。

詳しくは「ソフトウェアガイド」をご覧ください。

9

OSをインストールする

Linuxインストール代行サービス
バンドルタイプをご購入の場合

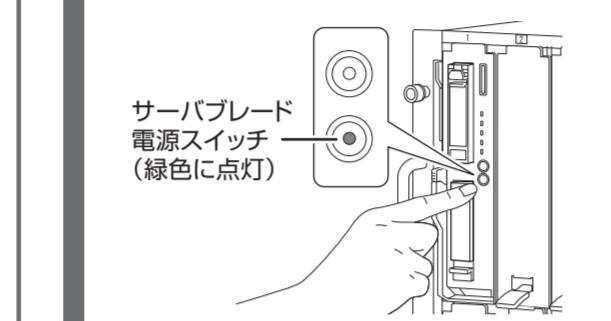
OSはあらかじめインストールされています。運用前に、システム環境や必要な設定について確認してください。
詳しくは「ソフトウェアガイド」の「付録B Linuxのシステム環境」をご覧ください。

rootパスワードについて

ご購入時のroot(パスワード)は右記に設定されています。jW%m9zPn
セキュリティのため、パスワードは必ず変更してください。
パスワードの変更方法については、「ソフトウェアガイド」の「第6章 Linuxインストール後の操作」をご覧ください。

OSをインストールする

本書では、ServerView Installation Manager(以降、SVIM)を使用して「クイックモード」でインストールする手順を説明します。他のインストール方法については「ソフトウェアガイド」をご覧ください。

1 サーバの電源を入れて、すぐに「PRIMERGY
スタートアップディスク」をセットします。

しばらくするとSVIMが起動します。

2 「コンフィグレーションファイルの保存先」
欄で「RAMディスク」を選択し、「次へ」を
クリックします。

SVIMの初期化処理が行われます。ハードウェアの構成により、初期化処理には数分かかる場合があります。
初期化処理が終了すると、「ようこそServerView Installation Managerへ」画面が表示されます。

3 「Deployment」をクリックします。

「Installation Manager Deployment Process Selection」画面が表示されます。

4 「クイックモード」を選択し、
「次へ」をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

5 インストールするOSを選択し、
「次へ」をクリックします。

「RAIDとディスクの構成」画面が表示されます。

Windows Server 2003 R2 の場合、Service Pack 2 適用済媒体を使用するときのみ「ServicePack 2」を指定してください。添付のインストールディスクにはService Pack 2 は適用されません。「ServicePack 1」を選択してください。

Windows Server 2008 の場合
1. 設定を確認して「次へ」をクリックします。
2. ライセンス条項をよく確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
3. 「開始」をクリックします。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 「(OS種別)の設定」画面が表示されます。
(OS種別)には、手順5で選択したOSが入ります。

Windows Server 2003 の場合
1. インストール完了のメッセージが表示されたら、[Enter]キーを押します。
2. 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択します。
3. オプションを選択し、「OK」をクリックします。
Windowsが再起動します。
4. 再起動後、設定したパスワードを入力してログオンします。

Linuxの場合
1. 「CD Not Found」または「CDが見つかりません」というメッセージが表示されたら、最初のインストールCDをセットし、「OK」をクリックします。
2. 画面の指示に従ってインストールCDを入れ替えます。
3. 「インストールが完了しました。」というメッセージが表示されたら、「再起動する」をクリックします。
システムが再起動し、高信頼ツールのインストールが自動で行われます。
なお、高信頼ツールのインストールには、10分程度かかります。その間画面には何も表示されません。

4. 必要に応じて、カーネルのアップデートを行います。
詳しくは「ソフトウェアガイド」の「5.3カーネルのアップデーター」をご覧ください。

5. ディスク交換のメッセージが表示されたら、
画面の指示に従ってディスクを交換します。

Windows Server 2003 R2 の場合、Service Pack 2 適用済媒体を使用するときのみ「ServicePack 2」を指定してください。添付のインストールディスクにはService Pack 2 は適用されません。「ServicePack 1」を選択してください。

Windows Server 2008 の場合
1. 「CD Not Found」または「CDが見つかりません」というメッセージが表示されたら、最初のインストールCDをセットし、「OK」をクリックします。
2. 画面の指示に従ってインストールCDを入れ替えます。
3. 「インストールが完了しました。」というメッセージが表示されたら、「再起動する」をクリックします。
システムが再起動し、高信頼ツールのインストールが自動で行われます。
なお、高信頼ツールのインストールには、10分程度かかります。その間画面には何も表示されません。

4. 必要に応じて、カーネルのアップデートを行います。
詳しくは「ソフトウェアガイド」の「5.3カーネルのアップデーター」をご覧ください。

5. 型名と製造番号の確認

修理相談窓口に連絡の際に必要です。それぞれのシステムIDカード(下記に格納されています)をご確認ください。

6 BIOSの設定

セキュリティ確保のため、BIOSパ

スワードを設定してください(ス

ケジュール運転する場合を除く)。

詳しくは、サーバブレードの「ユ

ーザーズガイド」の「4.4.1 不正使用防

止のセキュリティ」をご覧ください。

7 HDDチェックスケジューラの設定

詳しくは、「Integrated Mirroring SAS ユ

ーザーズガイド」および「MegaRAID SAS ユ

ーザーズガイド」(ストレージブレードをお使いの場合は)

「PROBEPRO 動作環境の定義

Windows Server 2003 x86をインストールした場合のみ

設定します。

詳しくは「ソフトウェアガイド」の「4.4.5 PROBEPROの設定」をご覧ください。

8 メモリダンプの設定

メモリダンプの作成(Windowsのみ)

11

コネクションブレードの設定/接続

お使いの環境にあわせて各コネクションブレードの設定をします。
ここでは、設定手順の概要のみを説明します。
詳しい手順、設定内容については、お使いのコネクションブレードのマニュアルをご覧ください。

『ソフトウェアガイド』

11

コネクションブレードの設定/接続

コネクションブレードを設定する

お使いの環境にあわせて各コネクションブレードの設定をします。

ここでは、設定手順の概要のみを説明します。

詳しい手順、設定内容については、お使いのコネクションブレードのマニュアルをご覧ください。

- 1 管理端末からマネジメントブレードのSVMFにログインします。
- 2 フームウェアの版数を確認します。

1. 左下の設定項目メニューで「コンポーネント」→「コネクションブレード」を展開し、設定するコネクションブレードをクリックします。
2. 「ファームウェア版数」の値を記録します。
3. インターネットに接続されている他の端末で「PRIMERGY」ページの「ダウンロード」(<http://primerserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>)を開き、「ダウンロード検索」をクリックします。
4. 製品名に「BX920 S1 サーバブレード」、カテゴリに「ファームウェア」、OSに「OS選択なし」を選択します。
5. 「添付ソフト／ドライバ名稱」欄にお使いのコネクションブレードの型名を入力し、「検索開始」をクリックします。
6. 表示された一覧から最新のファームウェアのバージョンを確認します。
7. 手順1で確認したファームウェアが最新でない場合は、最新のファームウェアをダウンロードして更新します。
ファームウェアの更新手順は、ダウンロードしたファームウェアのドキュメントをご覧ください。

3 コネクションブレードのWebインターフェースにログインします。

1. 左下の設定項目メニューで、設定するコネクションブレードをクリックします。
2. 「設定」タブをクリックします。
3. 「管理ポートの設定」欄で、「DHCP有効」のチェックを外します。
4. IPアドレスを、他のコネクションブレード、マネジメントブレード、および管理端末と重複しない値に設定し、「適用」をクリックします。
5. 設定が反映されるまで3分以上待ち、「情報」タブをクリックします。
6. 「管理URL」欄のリンクをクリックします。
7. コネクションブレードのマニュアルをご覧になり、初期アカウントのユーザー名／パスワードを入力してログインします。

4 コネクションブレードに必要な設定を行います。

コネクションブレードのマニュアルをご覧になり、管理者パスワードや時刻設定、VLANの設定など、お客様環境に応じたネットワーク設定を行ってください。

管理者パスワードは、マネジメントブレードの管理者アカウントと同じものを設定してください。

ケーブルを接続先機器に接続する

管理端末に接続していたLANケーブルを取り外し、他のLANケーブル／ファイバーチャネルケーブルとともにネットワーク機器やストレージ機器などに接続します。

注意事項

使用許諾契約書

富士通株式会社(以下社といいます)では、本サー(以降「本ソフトウェア」といいます)をご使用いただく権利をお客様に対して許諾する(あくまでも、下記「ソフトウェアの使用条件」にて同意いただいたことを条件としておりません)。なお、お客様の本ソフトウェアの使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたことといたします。本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただき、お読みいただけた場合は、本契約に同意したこととします。ただし、本ソフトウェアのうちの一部は別途「別のソフトウェア」の組み込みで使用されることであります。

ソフツウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーへのみで使用できます。なお、お客様は本サーへの購入により、本ソフトウェアの権利を得るものではありません。ただし、本ソフトウェアが複数台ある場合は、複数台で使用することができます。

2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアが別途バックアップ用として付属する場合を除いて、本ソフトウェアの複数台で使用することができます。

3. 本ソフトウェアの別途販売との組み込み
本ソフトウェアが、別途販売のソフトウェアと一緒に組み込んで使用されることであります。ただし、本ソフトウェアのうちの一部は別途「別のソフトウェア」として販売されています。

4. 製作
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.および3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で複製が許されていない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。
(2) 本ソフトウェアに複製権が付与されている場合には、複製できません。

5. 第三者への譲渡
お客様は本ソフトウェア(本サーに添付されている媒体、マニュアル等)を組み込んだりして譲渡することを禁じます。なお、お客様は本サーに添付されている媒体を本サーとは別に第三者に譲渡することを禁じます。

6. 变更等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンバート、逆アセンブルを行うことはできません。

7. 保証の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正等に対する努力を割り切った料金を提供いたします。また、本ソフトウェアの修理等に修理料金の負担等がかかる場合は、本サーが負担いたします。

(2) 弊社は、前項に基づき負担する費用以外の、本ソフトウェアの使用用途または使用不能から生じるいかなる損害(逸失利益、事業中断、事業情報の喪失等)についても、一切責任を負いません。ただし、本サー等のような損害の可能性について知られていない場合、同様に責任を負いません。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元による保証は受け取れません。

8. ハイセイデン
本ソフトウェアは、一般業務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途で想定したものであり、ハイセイデン用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、該当ハイセイデン用途に適さない場合、本ソフトウェアの使用をしないものとします。ハイセイデン用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求される場合であります。
記

原子力制御機、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds が開発した米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat ベースとしたすべての米国およびその他の国における登録商